

「超少子高齢・人口減少社会」では、この社会が、そして私たちが住む地域がいったいどうなっていくのでしょうか？「2025 年問題」という言葉はよく聞くことはあっても、それが私たちの生活にどう影響するのか、どうなるのか、実感できないという声も聞こえてきます。何が問題なのでしょうか？生活に直結する課題について特定医療法人社団若林会（湘南中央病院）の今井医師、またいきいき福祉会から提起いただき、地域に住み暮らす市民として、また、活動や事業を行なう私たちはその問題をどう捉え、市民としてどう対応していくべきなのかを考えるきっかけにしたいと思います。

これからの医療、私たちの暮らしはどうなる？

～「地域医療構想」と非営利市民事業の役割～

在宅医療や在宅介護を受ける人が急増する

必要な医療や、生活を支えるしくみが整えられるのか？

● 神奈川県「地域医療構想」⇒「急性期」ベット数は 13%の減少推計、「慢性期」ベット数は実質削減

● 2012 年から 2025 年にかけて在宅医療を受ける人は 1.7 倍、在宅介護を受ける人は 1.4 倍

● 構想では、地域に医療を含めた当事者の全生活を支える受け皿が整うことが前提となっているから・・・
「えーっ！ほんと??？」

● すでに 2004 年の医療制度改革以降、入院日数の短縮化が急加速⇒入院日数はほぼ 2 週間。
・・・「おちおち入院してられない！」

日時： 10 月 10 日 (火) 14:00～16:00

会場： 横浜市情報文化センター 7F 大会議室

(横浜市中区横浜市中区日本大通 11 番地 TEL:045-664-3737)

講演：「(仮題)神奈川県地域医療構想と地域連携の課題」

講師：今井重信氏 (特定医療法人社団若林会会長、湘南病院協会会長)

報告：「ラポール藤沢 24 年の実践から」(社福)いきいき福祉会より

主催：参加型福祉研究センター

<問合せ・申込先>

参加型福祉研究センター

〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-39 石橋ビル 4F 参加型システム研究所内

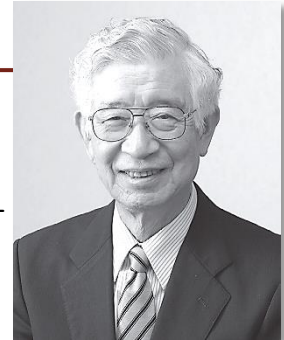
Tel045-222-8720 Fax045-222-8721

e-mail : sanka-fukushi@systemken.org

裏面へ

講師：今井重信氏

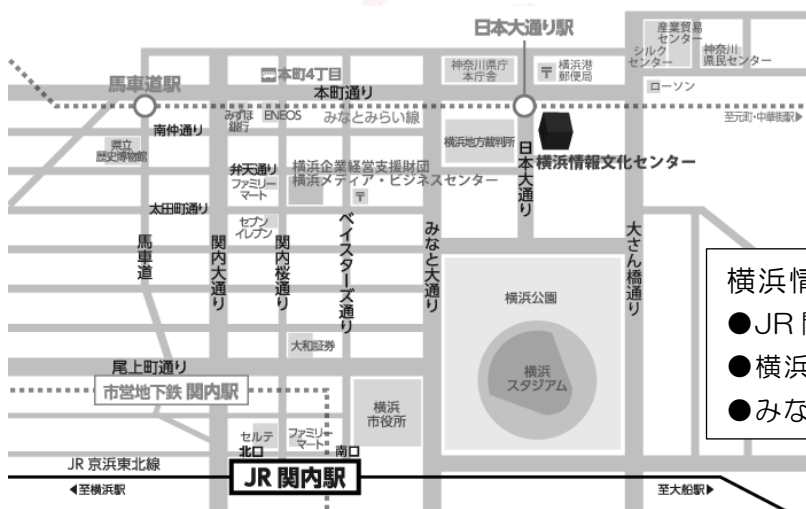
(特定医療法人社団若林会会長、湘南病院協会会長)



今井重信氏(湘南中央病院名誉院長)は、参加型福祉研究センターの情報紙「オプティマム」(2016年4月発行)の「My Issue」で「地域医療構想と地域包括ケアはコインの表裏」と題してこれらの動きが「明確な公助の後退」だと苦言を呈されました。その後2016年10月にまとまった神奈川県「地域医療構想」についてあらためてご意見や、地域での連携についての問題提起等をいただきます。

報告：社会福祉法人いきいき福祉会 より

藤沢市で20数年に亘ってさまざまな事業を展開してきた(社福)いきいき福祉会から、これまでの実践を通して見えてきた介護と医療に関わる課題等について提起していただきます。



横浜情報文化センター

- JR 関内駅南口徒歩 10分
- 横浜市営地下鉄関内駅 1番出口徒歩 10分
- みなとみらい線日本大通り駅 3番出口 1分

<参加申込書>

参加型福祉研究センター行き FAX045-222-8721

e-mail : sanka-fukushi@systemken.org

氏名	所属	連絡先

<問合せ・申込先>

参加型福祉研究センター 〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-39 石橋ビル 4F

Tel045-222-8720 Fax045-222-8721 e-mail : sanka-fukushi@systemken.org